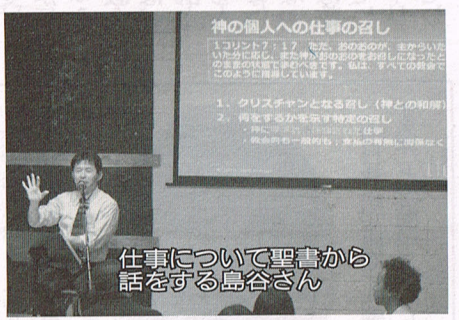
「神様が最初にされたのは仕事だった…」

「仕事は呪いではなくいいもの」

関西初の「Lightプロジェクト」開催

「仕事は必要悪？」をテーマに10月19日、関西初の信仰と仕事ミニストリー「Lightプロジェクト」（ディレクター・サックス知子）の「『信仰と仕事』ワークショップ」が、兵庫県神戸中央区のマスタードシード・クリスチャン教会神戸で開かれた。今回は2人の社会人クリスチャンが証しをした後、同プロジェクト関西ディレクターの島谷知明さん（マスタードシード・クリスチャン教会協力牧師）による聖書の学び、グループディスカッション、グループごとの発表があった。今回は聖書の学びとグループごとの発表を紹介する。

◇　◆　◇



仕事について聖書から話をする島谷さん

島谷さんは、『この世界で働くということ』（ティモシー・ケラー著、いのちのことば社）の内容を引用し、「神様が最初に行われたことは仕事だった」と話す。「創世記を見ると、『はじめに神が天と地を創造された』（1・1）から始まっている。聖書の冒頭部分から仕事が登場している。そして2章には『なさっていたすべての創造のわざをやめられた』（3節）と書いてある。創造のわざは、神様が始められた仕事だ。つまり、神様ご自身が最初になされたのが仕事であり、しかも『神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった』（1・31）とあるように、その仕事はとてもいいもの、楽しいものだったと言っている。仕事とは、実は私たちに、すばらしいと思える何かを与えてくれるもの、喜びの伴うものであって、苦しいものとして造られたのではなく、まして呪いでもない」

「私たちは神に似せられて造られた神様の作品だ。その尊い存在である私たちがする仕事は、内容、優劣に関係なくみな尊い」とも言う。「神様は私たち一人ひとりに個人的な召し（コーリング）を与えてくださっている。一つ目はクリスチャンになるという召し、二つ目は私たちが何をするかというという特別な召し。神様は一人ひとりを特別な仕事に召して、用いようとしてくださっている。「それぞれ主からいただいた分に応じて」（1コリント7・17）とあるように、自分に召されている仕事に就けば、『神様から与えられた仕事だ』という実感も生まれてくる」

あるアメリカの神学校の学長が、銀行家たちが集まる会合で話した言葉も紹介した。「その学長は『神様はこの世界の創造主であって、この世への最大の投資家だ』と話された。そして『神が投資銀行の銀行員であられるとイメージしてごらん』とおっしゃった。『神様は自分の持っている資産を最大限に活用し、新しいいのちに満ちた世界を創られた。それは、銀行員が新しい必要に気づき、その必要を満たす才能、能力、資源を見つけたら、リスクを冒してでも必要な投資をするのと同じなのだ』と。銀行家はアメリカでは『金の亡者』と捉えられ、批判の対象にされがち。でも、この話は彼らにとって大きな励ましになった」

「神様は皆さんの仕事にも同じ励ましを与えてくださっている」と島谷さん。「すべての仕事は社会を構築し、何らかの形で被造物を育てる手段であるというのが、本来の仕事の意味。自分の仕事をこのような形で考えてみてはいかがでしょうか」と語りかけた。

グループディスカッションの後、各グループから代表者が、話し合った内容を分かち合った。その中で、「投資家のような大金持ちのビジネスマンに対してあるイメージをもっていたが、彼らの仕事も神様から与えられたものであることに気づかされた。聖書に出ていくるザアカイやマタイと重ね合わせて、彼らにも福音を伝える必要性を感じた」、「今まで仕事をするのが嫌だったが、仕事は良いものだと分かったので、明日から違った意識で仕事ができると思った」、「仕事は神様の祝福だと分かった。投資銀行のお話のように、お金が回らなければ祝福も回らないので、お金を流していって、アブラハムのようにたっぷり祝福をいただきたいと思います」などの感想が語られた。

今回、関西での開催は、島谷さんが同じ志を持っているサックス知子さんに出会ったことがきっかけ。「多くの社会人たちが仕事をして行く中で、葛藤や悩みに直面している。聖書的な仕事観を広める必要があるという言葉に共感した。日本に必要な働きだなと思った。私は関西にいるので、関西で始めさせていただこうということで、第1回目をさせていただきました」

今回は、四国の徳島や愛知県の名古屋からも参加者があった。「Lightプロジェクト」は神戸だけでなく、大阪でも近々始まる予定だ。「口づてで、広がっている。九州などでもやってほしいという声がある。皆さん、待っていらっしゃいます」

詳細は http://lightproject.jp/で。

【中田　朗】

関西セミナー参加者

仕事は必要悪？（下）

ワークショップ終了後も交流の時は続いた